

# 八戸西スマートインターチェンジの整備について

八戸市 建設部 道路建設課

## 1. はじめに

八戸市は、青森県の南東部に位置し、面積は約 305km<sup>2</sup>、人口は約 23 万人で県内第 2 位の都市です。地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分するように 2 本の川が流れています。東北地方の北部にありながら、冬は雪が少なく、日照時間が長く、また、梅雨期から夏にかけて、冷涼多湿な偏東風(やませ)が吹くことが特徴となっています。

昭和 4 年の市制施行以来、全国有数の水産都市として、さらには東北有数の工業都市、国際物流拠点都市として着実な発展を遂げ、青森県南から岩手県北にまたがる広域圏における中心都市へと成長し、平成 29 年には、特例市から中核市へと移行しました。



## 2. スマートインターチェンジの整備について

青森県南地域の高速道路網には、東北縦貫自動車道八戸線と三陸沿岸道路の 2 路線があります。東北縦貫自動車道八戸線は、東北縦貫自動車道の安代ジャンクションから八戸市を經由して青森市へ至る路線で、現在、安代ジャンクションから八戸北インターチェンジ間とそれに接続する百石道路及び第 2 みちのく有料道路、上北自動車道の七戸インターチェンジまでが開通しており、その先の天間林道路においては整備事業が進められています。また、三陸沿岸道路は、東北縦貫自動車道八戸線の八戸ジャンクションから太平洋岸に沿って仙台市に至る路線で、現在、八戸ジャンクションから階上インターチェンジまでが開通しており、その先の全区間においても整備事業が進められ、岩手県久慈市までの区間は 2020 年度までの開通の見通しが示されています。

八戸市内における高速道路の形状は、東北縦貫自動車道八戸線が八戸市南部から西部を通過して北部に伸びており、八戸ジャンクションから南東方面へは三陸沿岸道路に分岐しています。しかし、2 路線での

インターチェンジは、八戸市内に、南郷、八戸、八戸北、八戸是川、八戸南の5ヶ所が設置されているものの、八戸インターチェンジ付近の八戸ジャンクションから八戸北インターチェンジまでの区間は13.2kmと長い上、同区間内に位置する市の西部並びに市の西部にアクセスする近隣市町村の住民は、インターチェンジまで混雑する市街地を通行しなければならないなど、高速道路の利便性が良好でなかったことから、新たなインターチェンジの設置が求められるようになりました。

そこで、平成18年、新たなインターチェンジの設置をめざし、近隣の十和田市、五戸町、六戸町、新郷村の4市町村とともに「(仮称)八戸西インターチェンジ」建設促進期成同盟会

を設立し、以来、一丸となって要望活動を展開してきました。その結果、平成26年8月に、国よりスマートインターチェンジの設置について連結許可をいただき、事業開始となり、その後、東日本高速道路株式会社とともに整備事業を進め、平成31年3月23日、開通の日を迎えることができました。

こうして開通した「八戸西スマートインターチェンジ」は、市の西部とその近隣市町村を結ぶ国道454号との立体交差点にあり、東北縦貫自動車道八戸線の八戸ジャンクションから北に8.7km、八戸北インターチェンジから南に4.5kmの場所に位置しています。運用時間は24時間、対象車種はETC車載器を搭載した全車種、上り線の盛岡方面と下り線の三沢方面への両方向に進入できるフルインターチェンジで、高速道路本線に直接接続する本線直結型となっています。

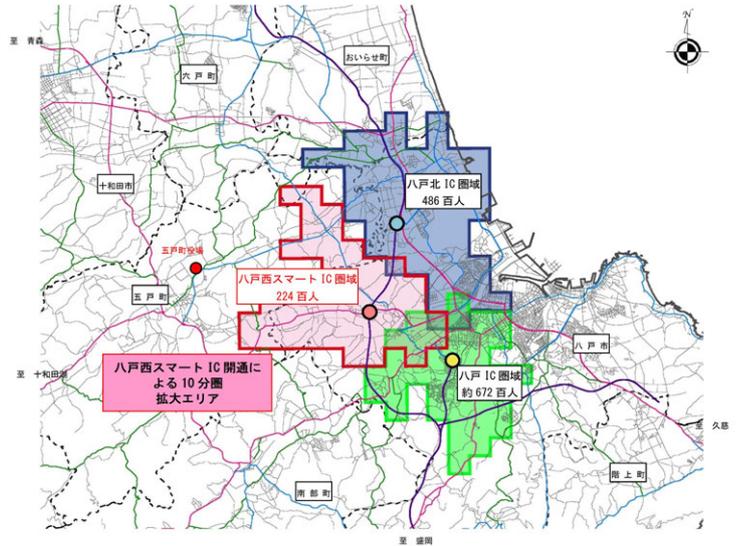
現在、青森県内及び岩手県北地域では唯一のスマートインターチェンジとなっていることから、利用方法の他、誤進入対策も含めて利用者への周知に努めているところです。また、計画交通量は、1日あたり610台を見込んでおり、利用促進に向けた取り組みを一層展開していく必要があるものと考えています。



### 3. 整備効果について

#### 1 高速道路の利便性向上効果

これまで八戸市西部地域は、高速道路を利用するためには、八戸インターチェンジ又は八戸北インターチェンジを利用するほかに、高速道路の利便性を享受できない状況がありました。スマートインターチェンジの開通により、インターチェンジ勢力圏が広がり、八戸市西部地域のみならず近隣の市町村においても高速道路の利便性が向上し、通勤やレジャーなど人的交流が促進されることが期待されます。



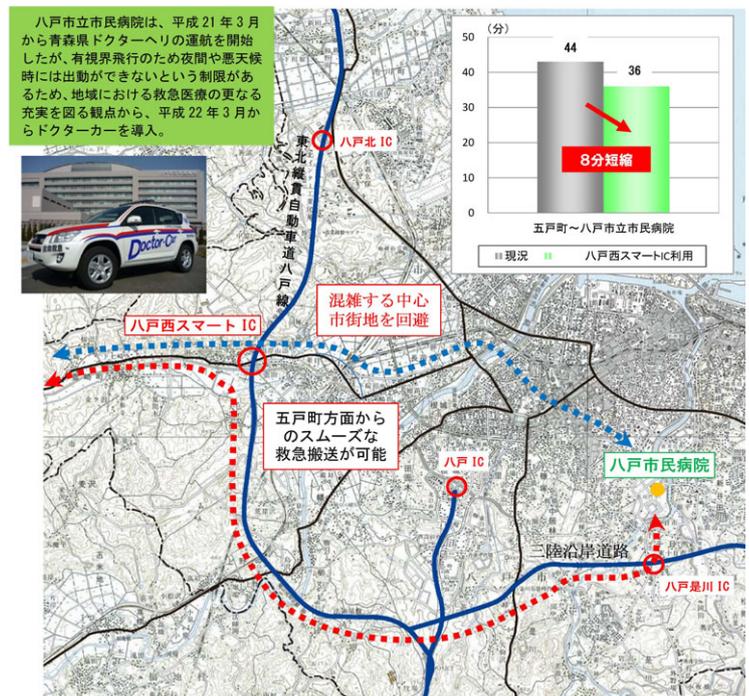
#### 2 地域産業、経済活動の活性化

現在八戸市において開発を進めている新産業団地が、スマートインターチェンジに近接する場所に位置しているため、スマートインターチェンジ開通により、企業の立地及び産業集積が進み、地域産業の活性化に貢献することが期待されます。



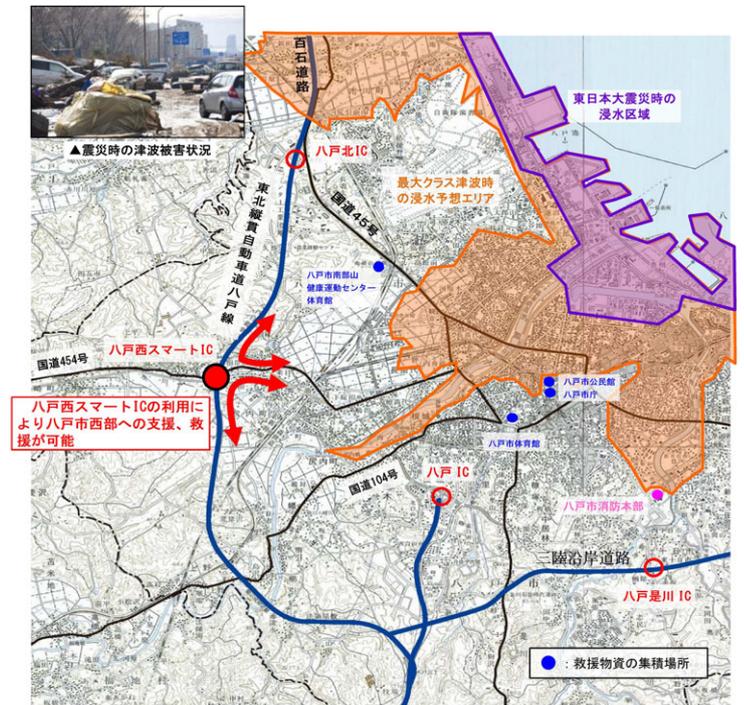
#### 3 広域的な医療体制の充実

第3次救急医療機関である八戸市立市民病院への救急搬送の際に、スマートインターチェンジを利用することにより、混雑する中心市街地を避けることができ、搬送時間の短縮や、安定した搬送が可能となり、救急救命医療への貢献、救命率の向上が期待されます。



## 4 防災活動の充実

スマートインターチェンジの開通により、八戸市の環状高速道路ネットワークを効率的に活用した災害時の救助・救援ルートが確保されます。また、津波被害などにより市内が分断された場合等でも、八戸市西部地域から防災拠点施設へのアクセスが可能となります。



## 5 観光産業の活性化

スマートインターチェンジに隣接する東北新幹線八戸駅から、三陸沿岸道路を通り市南東部の種差海岸をはじめとする三陸復興国立公園へのアクセス性が向上することから、観光産業の活性化とともに、三陸沿岸の復興にも貢献することが期待されます。



## 4. おわりに

八戸市は、今年、市制施行90周年という大きな節目のときを迎えます。さらには、八戸市として実施してきたこれまでのさまざまな取組が、一つひとつ実現していく年でもあります。その1つが、この「八戸西スマートインターチェンジ」の開通です。今年秋に、八戸市中心市街地付近には長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」がオープンする予定となっており、八戸駅西地区には、民間企業が主体となり、アイススケートを中心とする多目的アリーナ「FLAT 八戸」の建設も進められています。

スポーツにおいては、今年いよいよJリーグへの参入を果たした「ヴァンラーレ八戸FC」を始め、アイスホッケー「東北フリーブレイズ」、バスケットボール「青森ワッツ」などの地元プロスポーツチームの活躍が期待されます。

これらを契機として、市民の皆様が楽しくワクワク感をもっていただけるようなまちづくりに向けて、今後も引き続き努力してまいります。